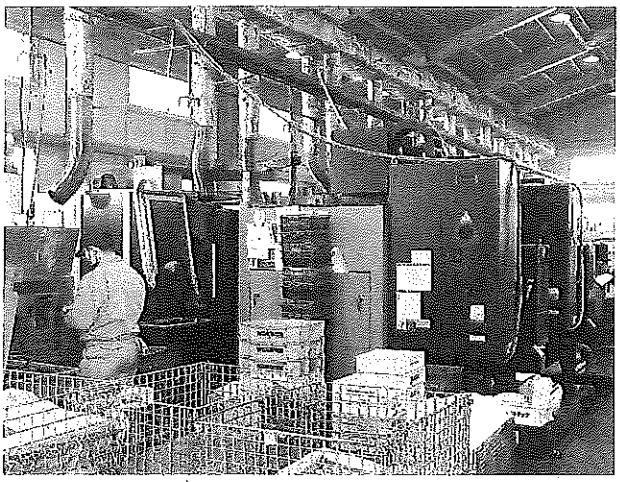
農機部品の受注拡大

前田鉄工、事業基盤を強化

【名古屋】前田鉄工所（名古屋市中川区、前田基樹社長）は、事業基盤の強化に乗り出す。2月から農業機械向けの新部品の加工事業を受注したほか、3月からは品質保証に関する社内トレーニングを始めた。収益力の高い農機向け部品の加工を増やすことで事業収益の安定化を図りながら、品質の担保に力を入れ顧客の信頼を獲得する。生み出した利益は社員の待遇改善のための原資にするなど、事業や経営の好循環につなげる。



農機向け歯車を加工する前田鉄工所の設備

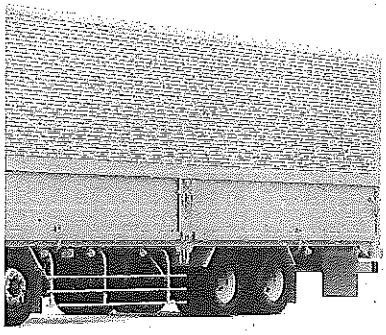
品質ノウハウ・意識醸成

顧客の信頼獲得へ

前田鉄工所はギアやモーターシャフトなど自動車部品向け加工事業が売上高の約7割を占める。残り3割は建設機械や農機向け部品の加工を手がける。

2月からトラクターのトランスミッション（変速機）向け歯車の加工を新たに受注した。自動車部品向け歯車に比べ、加工工程が多く少ロットながら高単価が期待できる。歯車全体の8割を同社で担う。変動はあるものの、月間数百個を加工し、年間2000万円程度の売上高上乗せを狙う。少ロットのため、自動化せずに技術者が対応することで加工技術の向上につなげる。

3月からは自動車メーカーで品質保証に取り組んでいた技術者による計測方法や品質の考え方に関するトレーニングを始めた。若手とベテランの技術者2人を選出し、1人につき週に1時間程度教育する。納入先からは多少高価でも品質が高い製品が求められる傾向にあり、品質に関するノウハウや意識の醸成を狙う。



トラック「日野プロフィア」

大型トラック「プロフィア」改良

運転支援を標準搭載

日野自

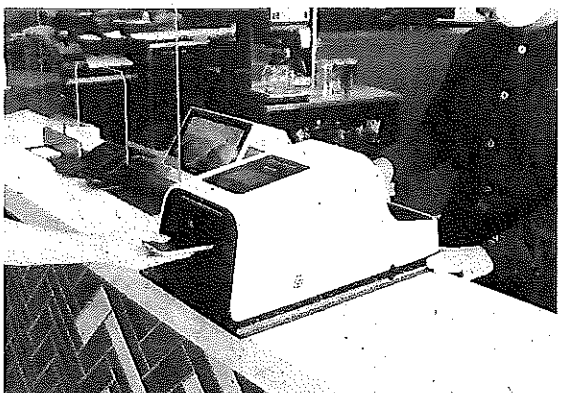
日野自動車はA09Cエンジンを搭載した大型トラック「日野プロフィア」を一部改良し、発売した。安全運転支援[illegible]価格は約2568万円（消費税込み）。

日野自は、走行車線の左右白線をカメラで検知し、車線を逸脱し[illegible]搭載しているため、徐々に速度を落とし白線内を維持しながら車両を停止させられる。

日野自がキャブ（運転[illegible]

スマホ表面 高速除菌

豊田合成、装置レンタル開始



豊田合成は深紫外線（UV－C）を発する発光ダイオード（LED）により、スマートフォンなどの表面を高速除菌する装置「UVD－TRON」のレンタルサービスを開始した。売り切りだけでなく、イベント時に限り利用するなど多様な活用シーンに応える。価格は14泊15日のワンタイムプランで1回につき5500円（消費税込み）。最低レンタル期間6カ月の月額制プランも1カ月5500円（同）。

UVD－TRONは同社が世界で初めて開発した青色LEDの技術を応用したもの。光の波長が短い深紫外線を発するLEDを独自技術で集光し、病原菌やウイルスを7秒で99・9％以上除去できる。スマートフォンのほか、専用トレーを活用することでカードや筆記用具など小物に対応する。

レンタルサービスにより店舗やオフィス・ホテルなどの受付のほか、人が多[illegible]

5工

プラグインハイブリッド車